第67回（公社）全日本鍼灸学会　学術大会　　平成３０年6月3日

129　2-P-E1(2) – 14:24　pp.224

鼠径ヘルニアに対し鍼灸治療が有効であった１症例

蛍東洋医学研究所　　大塚 信之

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

背景

鼠径ヘルニアは、自然治癒しないため、**外科手術が唯一の治療法**とされる

- 30～40人に1人と、高頻度に発症
- 日本人の成人の手術は、年間16万件
- 鼠径ヘルニア自体の鍼灸治療に関する学術文献の報告は、PubMedでは検索されない
- 鍼灸治療で鼠径ヘルニアが完治すれば、臨床的価値は高いと思われる

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

1. 目 的

外科手術が唯一の治療法とされる**鼠径ヘルニア**に対し**鍼灸治療**を行い、効果が得られたので報告する

- 鼠径ヘルニアに対する鍼灸治療効果を、計測可能な指標を用いて明らかにする
- 鼠径ヘルニアで生じた膨隆部の大きさの変化を、定量的に測定する
- 効果的な治療穴を明らかにする

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

2. 症 例　～主訴・現病歴～

属性：　54歳、男性

主訴：　右鼠径部の膨隆

現病歴：

- 右鼠径部の膨隆に気付き、総合病院の外科を受診
- 触診で鼠径ヘルニアと診断され、
  自然治癒しないため外科手術を指示された
- 右鼠径部に膨隆と軽度の牽引痛有
- 随伴症状は頸肩部痛、虫垂炎手術歴有

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

2. 症 例　～所見・診断～

所見　立位　：右鼠径部に直径4cm程度の膨隆
　　内部に直径2cm程度の硬結
　　仰臥位：膨隆及び硬結は消失
　　舌診　：淡紅舌, 薄白苔, 胖嫩舌
　　脈診　：沈平虚, 左関上と左尺中が虚
　　触診　：太衝と京門に圧痛

東洋医学的診断：左関上と左尺中の脈が虚、太衝の圧痛より、臓腑弁証は肝虚証とした

西洋医学的診断：医師の診断と、膨隆部の触診より、鼠径ヘルニアと考えられる

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

3. 治 療　～東洋医学的治療～

治療方針：

肝虚証改善、文献記載経穴、奇経反応点

治療部位：

本治法:　左曲泉、または 左太衝に刺鍼

標治法:　右商丘5壮、大巨 (三角灸) 5壮、
右外関3壮と左足臨泣2壮を３回、
および 左太衝3壮を適宜追加

灸の種類：半米粒大～ゴマ粒大、透熱灸

治療頻度：週6回を基本とし、6か月継続

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

3. 治 療　～西洋医学的治療～

治療方針：

膨隆部近傍に施灸して、血流改善と
筋緊張緩和により、牽引痛を改善

治療部位：

膨隆部 (気衝, 帰来) 5壮

灸の種類：半米粒大～ゴマ粒大、透熱灸

治療頻度：週6回を基本とし、6か月継続

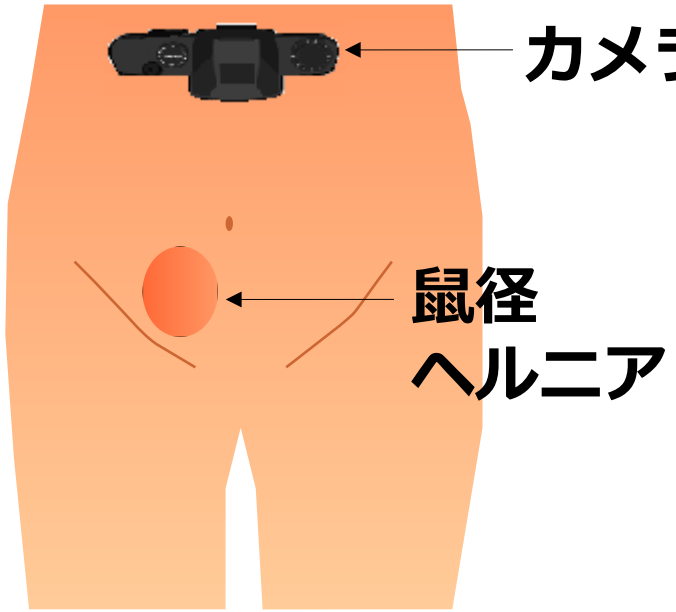
© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

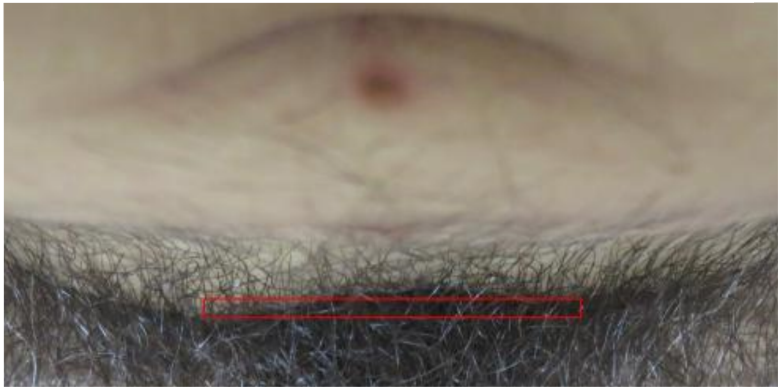
4. 評 価

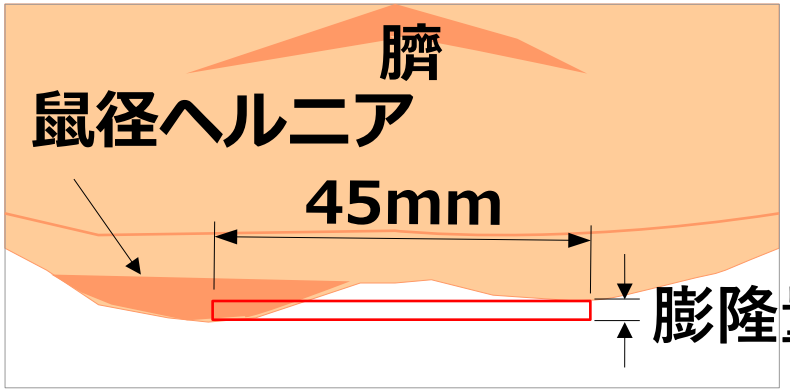
立位にて下腹部の**写真を撮影、膨隆量を定量化**

算出：左側同一部位を基準として、右側膨隆部の高さの差を膨隆量と定義。膨隆頂点の間隔を45mmとして、画像から膨隆量を計算。

頻度：週1回程度、入浴直後







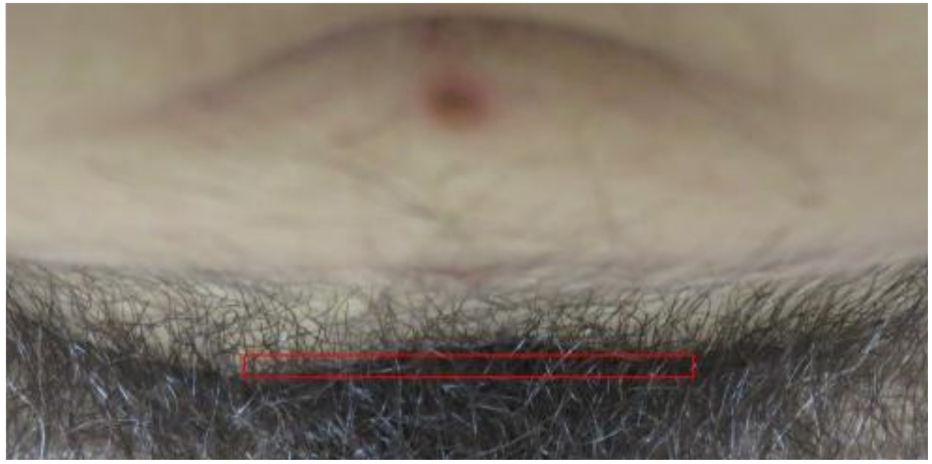
© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

5. 結 果　～膨隆部の変化～

膨隆量が減少しており、**鍼灸治療効果**が示唆される

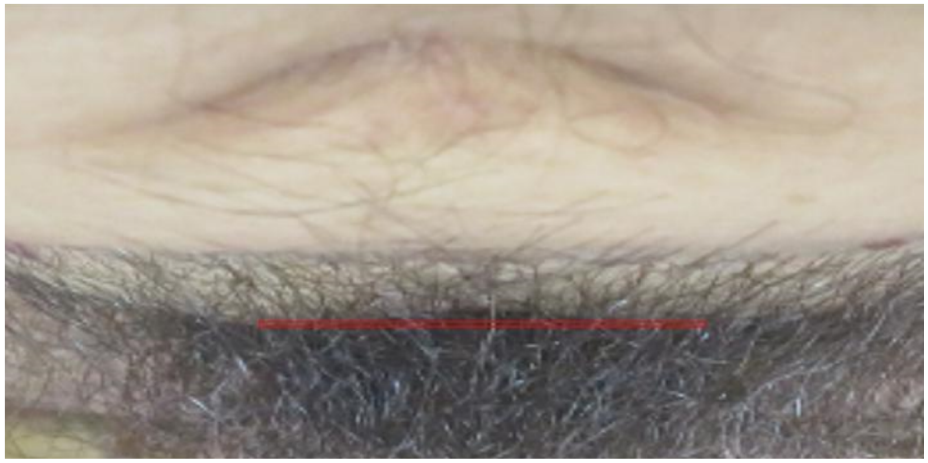
全体的に膨隆が縮小し、牽引痛は解消
鼠径ヘルニア自体は、完治はしていない

膨隆量2.3mm



症状確認後 24日目
治療開始後　2日目
2017年7月2日

膨隆量0.5mm

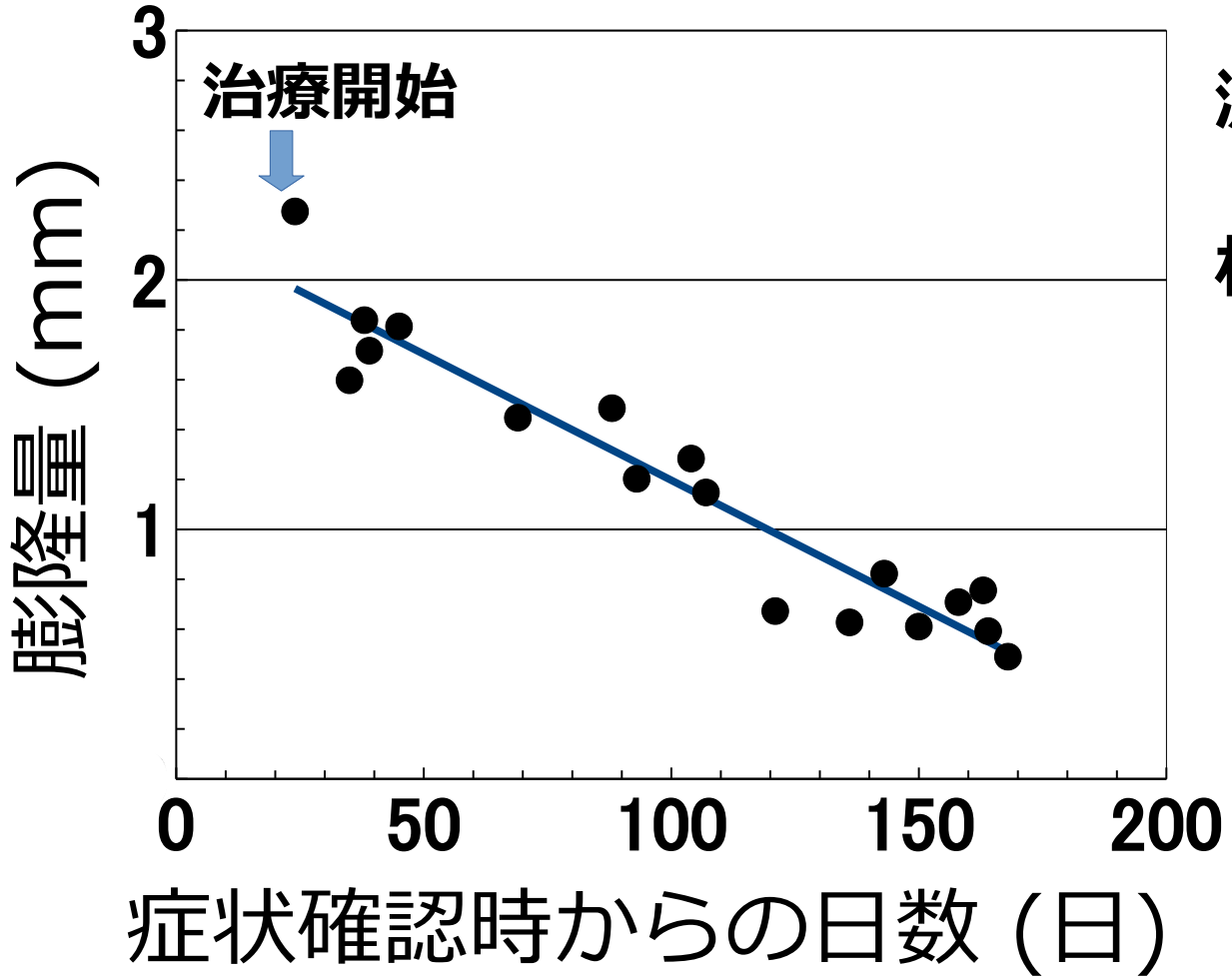


症状確認後 168日目
治療開始後 146日目
2017年11月23日

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

5. 結 果　～膨隆量の変化～

膨隆量の平均減少速度は、**１か月当たり0.3mm**



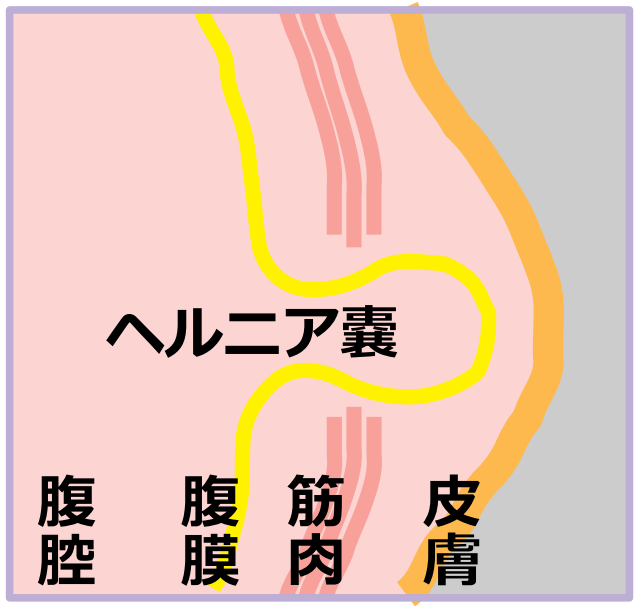
測定数：
n=18
相関係数：
r=0.96

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

6. 考 察 ～鼠径ヘルニアとは～

鼠径ヘルニアは**30～40人に1人**と高頻度に発症

- 発症率1.5%、男子が75%
- 外鼠径ヘルニアは最多で、年齢は問わない
  内鼠径ヘルニアは、成人で増加　[現代外科学大系]
- 日本の年間治療件数　成人16万件、小児14万件
  [日臨外会誌]
- 学術誌の検索では、鍼灸治療による鼠径ヘルニア術後痛緩和の報告は複数あるが、
  鼠径ヘルニア自体の鍼灸治療報告は検索されない　[PubMed]



© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

6. 考 察 ～狐疝(鼠径ヘルニア痛)～

鼠径ヘルニアによる**疼痛の治療穴**は古典にも多い
肝所生病としており、臓腑弁証 (**肝病証**) と一致

鼠径ヘルニアによる疼痛： 狐疝, 癪疝(タイセン), 寒疝, 疝気

弁証： 肝所生病 [黄帝内経霊枢]
肝の経脈病証 [針灸学基礎編]

- **曲泉**, 中極 [鍼灸治療基礎学]
- **三角灸**, **帰来**, 関元, 大敦, 足三里, 照海 [針灸学臨床篇]
- **三角灸**, **太衝**, 関元, 大敦, 三陰交, 陰陵泉 [中国針灸学Q&A]
- 衝門 [医心方]

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

6. 考 察 ～鼠径ヘルニア治療穴～

鼠径ヘルニア自体 (**脱腸**) の**症例報告は近代に多い**
症例報告や奇経反応点より選穴して効果を確認

- **大巨**, 中脘, 身柱, 肝俞, 腎俞, 患側大腸俞, 上巨虚, 中封等に灸、肝俞, 脾俞, 大腸俞, 章門に鍼
  [鍼灸治療の実際]
- **商丘**, **帰来**, 衝門, 急脈
  [鍼灸医学]
- **気衝**, 衝門, 中脘, 患側天枢, 章門, 気海, 患側帯脈, 患側維道, 肺俞, 厥陰俞か膏肓, 肝俞, 腎俞, 患側大腸俞か腰眼
  [鍼灸治療学]
- **外関**, **臨泣**, **太衝**, 通里
  [よくわかる奇経治療]

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

7. 結 語

- 鼠径ヘルニアは、自然治癒せず外科手術が唯一の治療法とされ、日本人成人は年間16万人が手術
- 鼠径ヘルニア自体の鍼灸治療の学術文献は検索されず、症例が記載された書籍も少ない
- 鍼灸治療により、右鼠径部の膨隆量が減少したことから、鍼灸治療効果が示唆された
- 鼠径ヘルニア自体は完治していないため、今後継続的に検討する

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

謝 辞 / 参考文献

謝辞

ご指導いただいた、小田原 崇文先生と
宮脇 優輝先生に感謝いたします

参考文献

現代外科学大系 第34巻 腹壁・腹膜 ヘルニア, 木本誠二, 中山書店, p295, 1971
日臨外会誌 78, 執行友成, p893, 2017
黄帝内経霊枢 経脈篇第十, 石田秀美, 東洋学術出版社, p231, 2012
針灸学基礎編, 劉公望, 東洋学術出版社, p303, 2000
鍼灸治療基礎学 第7版, 代田文誌, 医道の日本社, p123, 358, 1969
針灸学臨床篇, 天津中医学院/学校法人後藤学園, 東洋学術出版社, p262, 1993
中国針灸学Q&A 第2版, 靳瑞, 医道の日本社, p206, 1995
医心方, 高島文一, 至文堂, p463, 1987
鍼灸治療の実際, 代田文誌, 創元社, p623, 1992
鍼灸医学, 竹之内診佐夫, 南山堂, p130, 154, 162, 323,1977
鍼灸治療学, 山下詢, 医歯薬出版, p240, 1975
よくわかる奇経治療, 宮脇和登, たにぐち書店, p53, 62, 2007

蛍東洋医学研究所

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)

第67回（公社）全日本鍼灸学会　学術大会　大阪大会　抄録集　129　2-P-E1(2) – 14:24　pp.224

鼠径ヘルニアに対し鍼灸治療が有効であった１症例

蛍東洋医学研究所　　大塚 信之

【目的】外科手術が唯一の治療法とされる鼠径ヘルニアに対し鍼灸治療を行い、効果が得られたので報告する。

【症例】54歳、男性。主訴:右鼠径部の膨隆。現病歴:右鼠径部の膨隆に気付き、総合病院の外科を受診。触診で鼠径ヘルニアと診断され、自然治癒しないため外科手術を指示された。立位で右鼠径部に膨隆と軽度の牽引痛有。随伴症状は頸肩部痛。虫垂炎手術歴有。舌診は淡紅舌,薄白苔,胖嫩舌。脈診は沈,平,虚。太衝と京門に圧痛。臓腑弁証は肝虚証とした。

【治療】本治法:肝虚証から曲泉等に刺鍼。標治法:商丘,大巨,外関,足臨泣に半米粒大透熱灸を5～9壮。太衝や膨隆部(気衝,帰来)に灸点を適宜追加した。治療頻度は週6回を基本とし、6か月継続。

【評価】立位にて膨隆部を含む下腹部の写真を週1回程度で撮影。画像から、左側同一部位を基準とした右側膨隆部の高さの差を膨隆量として算出した。

【結果】膨隆量は治療開始時の2.3mmから5ヶ月後に0.5mmに減少。減少速度は0.3mm/月(n=18,r=0.96)であった。全体的に膨隆が縮小し、牽引痛は解消した。

【考察】'現代外科学大系'より、鼠径ヘルニアは30～40人に1人と高頻度に発症(発症率1.5%)。一方で PubMed では鼠径ヘルニア術後痛緩和の報告は複数あるが、鼠径ヘルニア自体の鍼灸治療の報告は検索されない。'鍼灸治療基礎学'等では鼠径ヘルニアによる疼痛を狐疝として、疼痛緩和の治療穴が報告されている。'黄帝内経霊枢'では狐疝を肝所生病としており臓腑弁証と符合した。鼠径ヘルニア自体(脱腸)の治療穴は、症例報告がある'鍼灸治療の実際'の大巨、'鍼灸医学'の商丘,帰来、'鍼灸治療学'の気衝、奇経反応点の外関,足臨泣より選定して効果を確認した。

【結語】鼠径ヘルニアは、自然治癒せず外科手術が唯一の治療法とされるが、右鼠径部の膨隆量が減少したことから鍼灸治療の効果が示唆された。

キーワード　鼠径ヘルニア　狐疝　商丘　大巨　奇経

© 2018 Hotal Ancient Medicine Research Institute (HARI)